

学校が再開して一週間。いつもの生活がもどってきたように見える。しかし「手洗い」「マスク」「ソーシャル・ディスタンス」などの「学校の新しい生活様式」に加え、学習面での様々な制約は、子供たちや教員の隠れたストレスを生んでいるのではないかと心配ばかりしている。

休み時間の子供たちの笑い声、走る姿に癒やされる毎日である。

昨日、1年生が「学校探検」で校長室にきたときの会話で大笑い。

私：「ねえ 校長先生はこのお部屋でどんなお仕事をされていると思う？」

Yちゃん：「それは自分が一番知ってるんじゃないの！」

今どきの子供の切り返してこういうものか…

今日は4年生が校外学習。地域を歩き、吉田浜の海を見る。お弁当も外で食べるし、「お〇つ」も少しだけ…いいらしい。熱中症防止、万が一の避難対策はしたが、浜風は涼しく、子供たちは、太平洋に叫び、波打ち際に遊ぶ。(すぐにパンツまで濡れていたが…) 広い砂浜に「3密」などあるはずもなくマスクも要らない。救護車の巡回など、神経をつかうのだが、できることは全てしてやりたい。

今、大切なのは「教科学習」ではなく、「子供の心を見とりケアする」こと。被災校の教訓である。